

第2回(仮称)苫小牧市民ホールWG会議

【鑑賞WG】議事要旨

日時：平成28年8月22日（月） 13:30～15:15

場所：本庁舎9階 会議室

出席：委員3名、事務局2名、北大3名

議題 鑑賞機能に関するアイデアおよび活動事例について

● 演奏者・鑑賞者両者の文化レベルを『育てる』という姿勢が大切である。

■ お金をかけずに演奏者の技術を底上げする取組

・参考事例1：『クラフキーズ』

小学校低学年から高齢者まで幅広い年齢層で構成されるクラリネット演奏サークル。

・参考事例2：東京の音楽大学に行って、苫小牧に戻ってきた若者が立ち上げたパーカッショングループ・金管楽器演奏グループ。

・プロの演奏者からの指導があるにも関わらず、演奏サークルという名目で行っているため指導料を取らず、むしろ指導者もお金を払って参加している。

・実際には、立ち上げた人も講座を開くなど演奏者の技術を底上げすることにつながっている。

・苫小牧市の吹奏楽の演奏レベルは当初驚くほど低く、指導したいが指導料をとるとは言い出しにくかったため思いついた。

・100円程度の参加費で楽譜を買うなど、お金をかけない工夫をしている。

■ 良いホールでの演奏は、聴く人を育てることもつながる。

・演奏者のレベルの向上を目指す一つの仕掛けとして、良い音響の中で観客に聴いてもらうことがある。

・良い音の中で聞けば、演奏中のマナーも自然と身につく。例えば、騒がしい子どもであっても感動するものの前に行けば自然とおとなしくなる。

・コンサートは、演奏者だけで作るのではなく鑑賞者も含めホール全体で作っていくのがよい。お客さん・演奏者の両方が音に集中出来る環境がほしい。

■ アウトリーチの試みを、より効果的にする工夫の検討

- ・ **参考事例**：可見市総合文化センターでの独自のチケット割引システム。プロの演奏会のチケットを、公開日に近づくにつれて安くし、興味が薄い人にも気軽に来てもらおうという取組。
- ・ 上記のように参加費をできるだけ低価格にするなど間口を広げ、市民の人が集まりやすくする取組は、基本構想のキーワード「アウトリーチ」に当てはまる。
- ・ 苫小牧市の方は、お金が少しでもかかると本当に来なくなってしまう。
- ・ 芸術を見る、しようという人がまだ育ちきっていないのが現状。芸術に触れる楽しさを知らない人が多い。
- ・ プロ演奏の良さがわからない人が多いため、苫小牧は観客のリアクションがひどい、というプロの意見も出ている。

■ 芸術に対する意識を「育てる」ことが重要。

- ・ 芸術文化をもっと定着させたいのであれば、新しい市民ホールは子供たちを「育てる」、大人でも興味を持ちやすい活動を増やすような場にするすることで、今後アウトリーチを取り入れた時の効果が高まるのでは。
- ・ スペックだけではなく、演奏者と観客が一緒になって文化を「育てる」活動や取組につながる施設が、『良いホール』と言えるのではないかと。

■ 市民の芸術活動に対する気質の育成方法の検討

- ・ ねぶた祭りや阿波踊り、沖縄の人々は音楽があれば踊りだす、という気質がある。
- ・ 苫小牧の人にそのような気質がないのは、そもそも機会がないから。
- ・ 出光カルチャーパークのお祭りで、市民が誰でも参加できる踊りのイベントを行ったが、気恥ずかしさからなのか経験がないからなのか、一緒に入って踊ってくれる市民が少なかった。やり方やノリ方が分からないと、入りにくい。
- ・ 教えてくれる人がプロじゃなく素人だと、一般の人たちも入りやすい。佐渡裕氏のコンサートで、踊りを踊りながら演奏することがあった。そのときは、プロのダンサーではなく、踊りに関しては素人の演奏者が踊っていたためか、一般の人たちも気軽に参加し、一緒になって踊ってくれた経験がある。
- ・ 県民性や市民性だけではなく、敷居を意図的に下げたり目線を同じにしたりするなどの工夫で解決できることもある。

● 市民『みんなで』、一つのイベントを作り上げる。

■ サークル間での交流促進の必要性

- ・ **参考事例**：苫小牧港祭りのダンスイベントでは、苫小牧市に5~6あるヒップホップサークルのメンバーが中心になって、簡単なステップを参加者に教えながらみんなで踊る企画。150人近くがステージに上がった。
- ・ 複数あるサークルが一緒になって企画したイベントは、参加者と見る人の間に温度差があったものの、初めての試みでとても良かった。
- ・ バレエサークル間には派閥があって、所属によっては参加できない公演会がある。市民みんなに参加の資格があるように、市などが管轄するのはどうか。
→大きくくりな新しい組織を若者が中心になって作れば良いのではないか。
- ・ 新しい施設の建設をきっかけにして、既存の派閥を解消するような新たな組織を立ち上げて良いかもしれない。

■ ジャンル間での交流を促す工夫の重要性

- ・ **参考事例1**：苫小牧アートフェスティバル。出光カルチャーパークで、芸術やダンスなどが多ジャンルの人が発表できる。美術館も近く、様々な文化に刺激を受けて、新しい結びつきが生まれる。
- ・ **参考事例2**：『活性の火』
 - ・ 有名な苫小牧出身のアーティストも出演するフェスイベント。今年はダンス枠もあり、多ジャンルが混じる異色なイベント。
 - ・ ELLCUBE(エルキューブ)というクラブハウスなどが主体となって、駅前通り商店街を中心としたまちなか再生事業として企画された。
 - ・ 入場は無料で、プロは別として、ほとんどボランティアでの出演。飲食でお金を落としている。
- ・ 異色の文化が交わるようなイベントを、若手が中心になってやっている。
→生バンドで踊るなど応用できると盛り上がりそう。バレエとか、ヒップホップなどジャンルで括るから人が来ない。大括りにして、年に1度のビックイベントにして集客を高めるシステムにできるのではないか。
- ・ 新しい施設では、クラシックやジャズ、ヒップホップやバレエなど、色々な分野の芸術活動が一つに集まっていることの強みを意識した仕掛けやイベントがあった方がよいだろう。
- ・ 芸術分野のジャンルを超えて一つの施設を市民みんなが使えるということが札幌市の施設との差異化にもつながる。

■ 創作活動との連携やマッチングのアイデア

- ・ 苫小牧では、バレエやヒップホップで使う特殊な舞台装置の整備が不十分であり、自前で購入することもできないので、困っている。
- ・ 舞台装置を作りたい人とそれを必要とする人のマッチングで、舞台装置などを手作りでまかなえる仕組みはつくれないか。基本構想の展示部門のキーワード「創作環境」とも関連。
- ・ 子供バレエの発表の舞台装置は、お母さんたちがお金をかけずにダンボールや紙パックで手作りした。遠くから見れば完成度は高いし、手作りの温かさがある。作るのが好きな人、作りたい人の需要はあると思う。
- ・ 中学生くらいになると、文化祭などの舞台装置もみんな自分たちで作る。
- ・ **参考事例**：『工房 REO』
 - ・ 樽前小学校とコラボして納屋を利用した個展などをやっていた。芸術の森にも作品を展示している。
 - ・ 金属系の作品を手がけている。
- ・ 苫小牧には美術に長けている工房 REO のような人たちもいるので、ワークショップのような催しをして、舞台装置づくりから公演までをパッケージングしたイベントも可能であるように感じる。
 - 例えば、工房 REO の人たちをコーディネーター役にするアイデアも考えられる。(坪内)
- ・ 例えば、中・高の美術部を巻き込んで、音楽・踊り・創作の総合的なビッグプロジェクトをみんなで作って最後に演奏会をすると、大きな感動につながるのではないか。多くの集客も見込める。
- ・ **具体例 1**：札幌シネマフロンティアの上映前の映像は、美術を学んでいる高校生が作っている。プロジェクトに学生を巻き込むことは十分可能。子供たちの発表の場にもなっている。
- ・ **具体例 2**：可児市の施設でも、プログラムや衣装に関する企画づくりから公演まで、市民の人たちが主体となったイベントも実際にある。
 - 可児市は、舞台装置を作る工作部屋のようなスペースがある。

■ 世代間交流を促す仕組みや工夫

- ・ 世代間交流をしながらみんなで作れば、とてもいいまちづくりになるはず。チームワークはいい成果につながるし、苫小牧の規模ならできる。
- ・ 公演会などのイベントには、自分の子供や知り合いが出ているというのがきっかけになる。そこから輪が広がっていく。

■ 多様な人が交流することで生まれる施設への愛着心

- ・幅広い年代の人やいろいろな人が関われば、みんなから大事にされるホールになる。
- ・創作活動との連携や世代間交流は、鑑賞に限らず展示や活動部門にも関連する。小さい頃から使うことは施設への愛着や居場所へつながる。文化に対する価値観が植え付けられるし、子供の頃から使うということはとても大事な視点。

● 設備やハード面に関する具体的なアイデア

- ・活動部会が大きいスケールなので、鑑賞部会はホールの中でどんなことをしたいかや、設備の話など具体的な議論を行ってほしいという意見が検討委員会で出ている。

■ 世界観を創出・演出のための特殊な舞台装置の重要性

- ・現状のホールではいつも現実的な部分が見えてしまって世界観があまり作り込めない。
- ・本当は使いたいと思っている人や、そう言った装置を知らない人にも、プロスペックのものが使えたり、教えてもらえたりするシステムがあると理想的。
- ・プロに頼んだ演出は可能だが、プラス 50 万〜と実費がかなりかかる。
- ・大掛かりな演出に大金がかかるのは仕方ないが、それをしないと何もなくて現実的、という極端な現状。中間のスペックが低価格で提供できないか。
- ・他市では備わっているし、「育てる」という意味では投資する意義があるのでは。

■ 一つの用途に完璧でなくともよく、多様な使いこなしができるホール計画のアイデア

- ・参考事例：茅野市民館では、ホールの席が全部移動できて、平土間にできる。プロレス・クラブイベント・バスケなど多様な使い方が可能。市民の人が席を移動できる。変形型のホールなど、みんなで使うことを想定したハード面の参考になる。
- ・現在、老朽化している科学センターのプラネタリウムを活用するのはどうか。完璧なプラネタリウムじゃなくてもよく、生演奏の音楽が聴けるなど。逆にホールの天井に星空を映すことができ、そこで演奏やダンスができるのも良い。
- ・現代の映像投影の技術からいえば、舞台装置にそんなにお金かけずプロジェクターで投影するだけでも世界観を構築できるかもしれない。
- ・札幌市の雪まつりでの雪像に映されたプロジェクションマッピングも評判がいい。
- ・苫小牧駅の階段上のスペースでは、若者がダンスの練習をしている。また東京の高円寺駅前では、生演奏を街行く人が見ていたりするなど、そういう気軽さがほしい。
- ・機能ごとにスペースが区切られているのではなく、美術館で展示を見ながら生演奏が聴

けるというような、ロビーのようなカフェのような空間があるといいのでは。

- ・最近の小学校なども壁が取り払われていたり、ガラス張りの開けた空間が採用されていたりする。もちろんホールは仕切られるべきだが、そのような誰もがフリーで使える場所があるといい。
- ・今回計画する施設の仮名称が「市民ホール」だから分かりにくいが、今回目指しているのは単なる劇場のみの施設ではなく、市民みんなが使える場所を目指す新たな複合施設である。
- ・昔は小ホールで結婚式もやっていた。
- ・レストランの横と上階に厨房があり、そこで料理を作って結婚式をしていた。

● 情報拡散に関する課題とアイデア

■ 現状の課題の把握

- ・様々な面白い取組やイベントがあるが、その情報が流れてこない。施設ができる前に、情報拡散しておくべき。
- ・興味のある情報は、自ら取りに行かないと得られないのが現状。
- ・SNS 世代は情報拡散のツールは豊富だが、いかに高齢者に情報を伝えるかが課題。

■ 施設を利用した時に、情報が得られるような仕組みづくりの重要性

- ・施設が複合すれば自然と情報も集まってきて、自分に興味のないジャンルでも目にする機会は増えるのではないか。そのためにも施設の雰囲気や気軽さは重要な要素である。
- ・情報発信については、総合体育館など他の公共施設と連携して掲示するという意見が前回の検討委員会でも出ている。
- ・用事で施設を来訪した人がそこで情報を得られるような、基本構想の「ついで利用」に関連するような取組も考えられる。

■ イベントの情報をまとめて発信する情報誌のアイデア

- ・理想的なのは、市が情報を集めて市の広報誌に情報を掲載する方法。市の情報は信憑性が高く読む人も多いのでは。実行するのは困難なのだろうか。
- ・チラシを挟んで配ることはできるが、情報量が多くなり雑多なものになってしまう。
- ・チラシという形ではなく、広報誌の1ページに特集して、まとめてくれると嬉しい。興味のあるものは自分で調べるきっかけになる。
- ・プレスバンク、リアッタ、ラポールといった苫小牧市の情報誌では、月の行事予定表が載っている。もらいに行かないと手に入らないのが難点。

- ・市が一元化して広報誌に掲載したとしても、そもそも広報誌を読まない市民が多いのではないかと。そこに情報の発信と受信の関係の難しさがある。むしろ先ほどあったように、市民がいろんな所で情報の受信をできるようにした方が良いのではないかと。

■ 長期的な視点での SNS を利用した情報拡散の重要性

- ・発信するのは難しいかもしれないが、登録すれば情報が得られるのが SNS のよさ。将来的に、情報端末を活用した情報発信は有効ではないかと。
- ・新しい施設の HP などから、高齢者でも情報が得られるような環境にしていく必要がある。

● 人口規模が同じ市の施設についての報告

- ・公共施設を対象として、メインホールと小ホールの席数を調査。
- ・人口規模による席数の傾向は特に見受けられなかった。
→ 苫小牧市は人口 17 万人だから、という理由で席数を決めるのではなく、こうあるべきだという価値観をもとに席数の検討を行っていききたい。

● 次回・次々回の WG 会議について

■ 次回の議論のテーマ【資料 1 参照】

- ・「圏域」と「ついで利用」→「圏域」と「アウトリーチ」に変更。
- ・委員の皆さんは芸術を創作する側の立場にあり、今日は主としてその立場から様々な意見やおもしろいアイデアが出されたが、逆に鑑賞する側の立場からの意見（アウトリーチ）について、もう少し議論を深めてみてはどうか。
- ・それは最初に出された『育てる』ことにもつながる。私事で恐縮だが、私の子供が小学生の頃、近所の古い倉庫を利用した小劇場に演劇を見に連れて行ったことがあるが、その後高校生になって彼女自身が同じ場所で友達二人と演劇の公演をした。現在は映画やテレビドラマの制作現場で働いている。子供の頃の経験がきっかけになり、芸術文化の分野に足を踏み入れ、育てられたのではないかと思っている。

■ 今後のスケジュール

第 3 回目： 9 月 16 日 (金) 13:30～@本庁舎 2 階 21 会議室

第 4 回目： 10 月 18 日 (火) 13:30～@本庁舎 2 階 21 会議室

■ WG 委員の事前準備

アウトリーチにこだわらず、苫小牧市内（イベントや団体について等）の情報収集。